

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	地学		
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	都市環境デザイン工学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	高等学校 地学基礎 西村 祐二郎他 第一学習社,配布プリント						
担当教員	堤 隆						
到達目標							
地学は身近な自然現象(地震・火山活動・気象・海洋等)や地球の生い立ち、生命の歴史や進化、天文・宇宙等の多様な基礎知識を学習し探求する総合学である。地学現象の一端に触れ、科学的な思考力や自然観を身につけ、グローバルな視点にたった災害予知、安全防災環境改善資源利用等の考察や対処能力育成を目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	現在の地球環境が作られたあらしを正確に(8割以上)説明できる。	現在の地球環境が作られたあらしをほぼ正確に(6割以上)説明できる。	現在の地球環境が作られたあらしを説明できない。				
評価項目2	地震で発生する地震波の分析や、地球の内部のマグマと火成岩の関係、組織等について正確に(8割以上)説明できる。	地震で発生する地震波の分析や、地球の内部のマグマと火成岩の関係、組織等についてほぼ正確に(6割以上)説明できる。	地震で発生する地震波の分析や、地球の内部のマグマと火成岩の関係、組織等について説明できない。				
評価項目3	大地の変動や火山活動による地形の変化のありさまについて正確に(8割以上)説明できる。	大地の変動や火山活動による地形の変化のありさまについてほぼ正確に(6割以上)説明できる。	大地の変動や火山活動による地形の変化のありさまについて説明できない。				
	日本列島の地殻の変動の様子について正確に(8割以上)説明できる。	日本列島の地殻の変動の様子についてほぼ正確に(6割以上)説明できる。	日本列島の地殻の変動の様子について説明できない。				
	建設分野における地質の調査と評価手法を正確に(8割以上)理解し説明できる。	建設分野における地質の調査と評価手法をほぼ正確に(6割以上)理解し説明できる。	建設分野における地質の調査と評価手法を説明できない。				
	実例を通して建設と地質との関わりについて正確に(8割以上)理解し説明できる。	実例を通して建設と地質との関わりについてほぼ正確に(8割以上)理解し説明できる。	実例を通して建設と地質との関わりについて説明できない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	地学は身近な自然現象(地震・火山活動・気象・海洋等)や地球の生い立ち、生命の歴史や進化、天文・宇宙等の多様な基礎知識を学習し探求する総合学である。地学現象の一端に触れ、科学的な思考力や自然観を身につけ、グローバルな視点にたった災害予知、安全防災環境改善資源利用等の考察や対処能力育成を目標とする。						
授業の進め方・方法	自然災害に対処する場の多い本学科と地学は学問的に密接な関係にある。地球の歴史や環境、自然界の様々な現象の基礎知識を身につけた上で建設工学における事例を学ぶことは本学科学生に非常に有意義である。						
注意点	教科書の1/3程度の内容しか学習できないが、ポイントをしっかりと確認すること。さらに建設工学における事例は次年度に開講される土質力学や水理学に密接に関連するので理解を確実にしておくこと。小単元ごとに課題を与え提出させるのできちんと解き、学習内容を再チェックすること。キーワードなどを良く理解し、定期考査に臨むこと。						
授業計画							
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	20	0	0	0	0	70
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0